

[WG名]

物流DXワーキンググループ

[補助事業名]

トラック荷待ちゼロアプリ「イマツム」実証実験 ～中小規模荷主企業に向けた、 物流クライシスを回避する目的のアプリ機能の最適化～

[幹事企業名]

株式会社ZENSHIN

[WGメンバー]

株式会社ブイ・アール・テクノセンター
朝日大学
一般社団法人 岐阜県トラック協会

01

事業概要

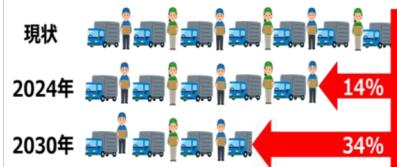
「物流クライシス」による輸送力不足の恐れ

「荷待ち時間削減」が重要な課題に

「荷待ち」を独自に定義・計測し、分析・可視化
することで「荷待ち時間削減」を目指す

「物流クライシス」の危機

未施策の場合2030年34%の輸送力不足



出典：経済産業省 (2023年8月)
「持続可能な物流の実現に向けた検討会」

02

実施内容

1. 「荷待ち」の定義

WGにて「荷待ち」を細分化し8作業へ分類分けを実施

○8作業分類

- ①現地到着 ②入門（受付） ③検量 ④荷降ろし
- ⑤荷積み ⑥伝票発行 ⑦退門 ⑧その他荷待ち

▼実証実験の取材



2. 機能改修の実施

運送会社・荷主企業の使い勝手を
考慮した機能を新たに実装

○荷待ち計測 ○スポット配送機能

▼荷待ちの要因と時間を計測する「荷待ち計測機能」



3. 実証実験・ヒアリングの実施

荷主企業・運送会社と連携した実証実験と
サービス評価のためヒアリングを実施

4. 荷待ち時間の削減に対する荷主企業の意向調査

3,862社を対象先とし、アンケートを送付

▼定点カメラを設置し荷待ち作業を記録



03

検証項目とその結果

1. 検証項目

○「荷待ち時間」の実態把握

定義を行った「荷待ち」8作業分類に従い計測・分析を行うことでどの工程がボトルネックとなっているか実態把握と課題抽出

○機能改修の評価と需要把握

改良したサービスが物流現場の需要に即した機能を充足しているか評価・検証を実施し現場の需要にあったサービスとなるための課題を抽出

2. 検証結果

○「荷待ち」のボトルネックは「荷役工程（荷降ろし・荷積み）」

荷降ろしでのクレーン作業など状況が複雑になるほど遅延が発生しており、その作業が終わらないと次のトラックが入れず、現地到着から入門で荷待ちが発生。

○課題は作業内容の見える化

刻々と変化する現場をリアルタイムで把握できていなかった。①現地到着と②入門(受付)は②の時間を計測することで対応可能だったため、開発では1つに集約。

▼「荷待ち8分類」分析見本

○運送会社			
①現地到着	13:40	14:56	1時16分
②入門（受付）	13:40	13:42	0時02分
③検量			0時00分
④荷降ろし			0時00分
⑤荷積み	14:57	15:07	0時10分
⑥伝票発行			0時00分
⑦退門	15:07	15:07	0時00分
⑧その他荷待ち			0時00分
		合計	1時28分

04

今後の展開

1. 「荷役工程（荷降ろし・荷積み）」のリアルタイム把握
2. デジタコを持たない小規模運送会社が導入しやすい機能実装

運送会社と荷主企業の相互理解を深める利便性が高い機能改修の実施